

johas 北海道せき損センター

せき損センターニュース

基本理念

良質で安全な医療
信頼される医療
心の通う医療

基本方針

- ・北海道のせき損医療を守り最先端のせき損医療を行います
- ・診療科を充実させ地域医療に貢献します
- ・病院の持続的発展のため経営基盤を確立します

当院では、整形外科を始め、内科、循環器内科、外科、形成外科、泌尿器科、リハ科、歯科、脳神経外科(院内標傍)、皮膚科(院内標傍)、せき損内科(院内標傍)の一般診療を行っています。

須田院長 ベストドクターズ・イン・ジャパン 14 年連続



ベストドクターズ社は 1989 年にハーバード大学の医師によって設立されました。医師を対象に「自分または家族の治療を誰に委ねるか」という観点から調査を行い、高い評価を得た医師が選出されます。須田院長は 14 年連続（1 期 2 年、7 回連続）の選出となりました。

「チーム医療」

ベストドクターズ・イン・ジャパンに 14 年連続で選出していただき大変光栄です。いつも私や病院を支えてくださっている労働者健康安全機構と当院の皆様に心から御礼申し上げます。また、この賞は私個人ではなく、北海道せき損センター全体への評価と考えております。医療はチームワークが大切です。全ての職種、多くの職員の協力があって初めて良い医療が提供できます。今回の選出はみなさんへの評価でもありますので、ぜひ、この喜びを皆さんと分かち合いたいと思います。

「反省と努力」

一方で、私たちにはまだまだ改善すべき点がたくさんあります。患者さんへのやさしさ、誠実さは？仲間への思いやりは？後輩への指導や教育は？研究や勉強は？・・・足りないところは補い、反省すべきは反省し、より良い医療を提供できるよう努力し続けなければなりません。私自身も皆さんとともに、これからも努力を続けます。「今で良い」と思うことなく、歩みを止めないこと。それがより良い医療につながると信じています。

「高い専門性と豪華キャスト」

当院には、それぞれの分野で高い専門性を持つ医師が集まっています。三浪名誉院長は長年にわたりベストドクターズ・イン・ジャパンに選出されている手外科の世界的権威です。坂井副院長は脊髄損傷（以下脊損と略します）全般、松本副院長は脊損リハビリ、東條副院長は関節外科、小松部長は脊損医療・脊椎外科でそれぞれ高い専門性を有しております。猪又部長はじん肺分野で日本

を代表する呼吸器内科医ですし、齋藤部長は腕の良い外科医です。出張の竹田先生はリウマチ・膠原病の名医、豊嶋先生（北海道大学教授）は血液内科の権威です。都市部であれば予約が数か月待ちでも不思議ではないような豪華な顔ぶれです。血管外科・松井先生、泌尿器科・森田先生、高松先生、その他にも北海道大学から皮膚科、形成外科、脳外科、循環器内科、リウマチ科、糖尿病内科など数多くの素晴らしい先生方が診療応援してくださり、医療の質を高めてくださっております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



「北海道全体を考える」

当院は日本に2つしかない包括的な脊損専門施設であり、もちろん北海道では唯一です。私たちは北海道全体の脊損医療を守るという大きな役割があります。搬送体制、再生医療、重症患者の急変時への対応、高度医療機関との連携など、北海道の脊損医療を将来にわたって維持・発展させていくためには、病院の移転・新築を含めた抜本的な対応が必要です。現在、美唄市とも将来の病院の在り方について協議を重ねています。

「築71年。まったなし」

当院は築71年が経過しており、現行の耐震基準を満たしておりません。日本は地震大国であり、老朽化した建物で診療を継続することは大きなリスクを伴います。当院では10年以上前から労働者健康安全機構や厚生労働省と札幌近郊への移転だけでなく、老朽化への対応について協議を重ねてきました。新しい病院をどこに、どのような形で整備するのか、その過程で地元の皆さまのご理解をいただくことはとても大切です。一方で、患者さんと職員の安全を考えれば、時間的な余裕はありません。

「美唄が好きです」

私が初めて美唄に来てから30年近くになります。その間、道内外の複数の大学や大病院から何度も転職のお誘いをいただきました。どれも魅力的なお話でしたが、脊損医療と北海道せき損センターを守ることを考え、美唄に残る道を選びました。私は美唄が好きです。一方で、北海道全体の脊損医療を守ることと、美唄の地域医療を守ることは、それぞれ別の課題として考える必要があります。両方を一つの問題として解決しようとすれば、いつまでも結論に至らない可能性があります。それぞれにとって最善の道を探し、どちらも将来にわたって守っていきたくて願っております。皆様のご理解をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

これまで長年にわたり北海道せき損センターを支えてくださった美唄市民の皆様への感謝を忘れることなく、地域医療と脊損医療の両方を守る決意で歩んでまいります。患者さんと職員の安全を最優先に、一日も早く将来の方向性をお示しできるよう、これからも関係各所との協議を進めてまいります。（文責 須田浩太）